

地域の絆を支える アプリを活用した 自治会活動

詳細 まちづくり推進課 ☎058-383-1662



自治会の現状と課題

皆さんの身近な地域コミュニティである自治会は、地域の安心や安全そして生活環境の向上を目指して、さまざまな活動を行っています。しかし、最近では少子高齢化やライフスタイルの多様化などにより、自治会役員の負担の大きさや活動の担い手不足などが大きな課題となっています。



電子回覧板アプリの導入

そこで、自治会役員の負担軽減を図り、今後も持続可能な自治会活動を維持していくために、令和7年1月から、市内の自治会の一部が「電子回覧板アプリ」を試験導入しました。

アプリを活用することで、効率的な情報共有や、地域のコミュニケーションの促進を図ることが出来ます。試験導入から1年が経過し、このアプリを利用した自治会からは、自治会情報の発信の仕方や、配布する広報紙の削減による自治会役員の負担軽減の成果について、報告がありました（詳細は、次ページ参照）。

アプリを利用した自治会の活動事例

電子回覧板アプリを利用している自治会の一つが、川島地区の「緑町自治会連合会」です。緑町自治会連合会では、令和7年3月から会員にアプリの登録を呼びかけ始め、現在では約97%の世帯がアプリに登録しています。

取組① 自治会情報の発信

緑町自治会連合会がアプリで発信する情報は、地域行事のお知らせだけでなくありません。自治会ごみ収集ステーションの場所変更に関する情報を写真付きでわかりやすく発信したり、自治会区域内で発生した自動車事故について共有し、自治会員へ注意喚起をしたりすることにも利用されました（下図参照）。

成果

自治会員からは「地元の情報をリアルタイムで得られるのはとても良い」という声が寄せられ、自治会が地域に密着した活動をしていることが伝わっています。

取組② 配布する広報紙の削減

自治会役員からの提案を受け、令和7年12月1日号から、紙の広報紙の配布を希望制にする実証実験を

行っています。現在299世帯の会員のうち、264世帯（約88%）がアプリで広報紙を閲覧し、紙で受け取っていません。また一方で、見守りが必要なひとり暮らしの高齢者などの世帯には、引き続き紙で直接広報紙を届けることを見守り活動の一環として継続しています。

成果

自治会の役員からは、「広報紙を1軒1軒ポストに入れるのは大変だったが、楽になった」といった声が寄せられました。

アプリ導入で

自治会加入のきっかけに

緑町自治会連合会
会長 木村徹之さん



アプリの導入をきっかけに、今まで自治会に加入していなかった世帯にも声をかけ、自治会への加入とアプリの登録をもらうことができました。また、若い世代の会員にも自治会運営に参画してもらえるようになりまし。

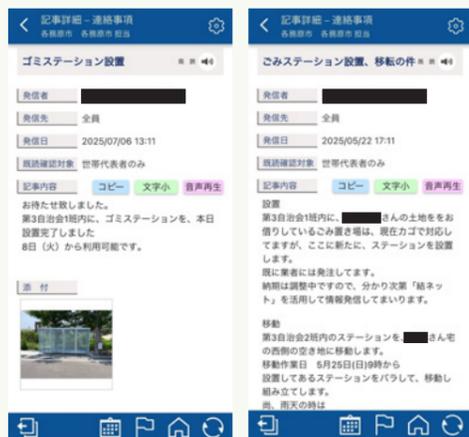
緑町自治会連合会の取組が、市のモデルになるよう、これからも推進していきます。

緑町自治会連合会の アプリ配信画面

自動車事故の注意喚起



ごみ収集ステーションの場所変更



会員への一斉連絡

- ▶ 重要なお知らせをタイムラグなくすべての会員に共有できます
- ▶ 回覧文書の印刷や配布にかかる負担が軽減されます
- ▶ 過去の情報を見返すことができます

行事出欠確認・アンケート

- ▶ 行事や会議の出欠確認や天候などによる中止連絡がスムーズに行えます
- ▶ アンケート機能により会員の皆さんの意見が簡単に集約できます

すべての年代層でマニュアルが無くても簡単に操作ができます



電子回覧板アプリのイメージ

電子回覧板アプリの機能

災害時の安否確認

- ▶ 迅速に安否情報を共有し、支援の輪を広げることができます



市広報紙などの閲覧

- ▶ 市広報紙や回覧文書、防犯情報などを手軽に確認できます
- ▶ 紙の広報紙の配布が不要になります

アプリの活用で 持続可能な自治会活動



電子回覧板アプリの導入で、自治会活動は転機を迎えています。アプリを活用して役員の負担を軽減することで、「誰もが自治会活動を担える仕組みづくり」を進め、「持続可能な自治会活動」を継続していくことを目指しています。

今後は、アプリを使った防災訓練などの活用事例を紹介するなど普及啓発に取り組みしていきます。導入を希望する自治会は、まちづくり推進課までご相談ください。

自治会活動

デジタル化支援補助金

市では、令和8年4月以降、自治会が電子回覧板アプリを導入する場合に、その初期設定費用の助成（上限額6万6000円）を予定しています（事業の実施には、予算などの成立が条件になります）。ぜひ、この機会に活用をご検討ください。